



TITLE:

表紙、序、目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙、序、目次. 京都大学高等教育叢書 2003, 17

ISSUE DATE:

2003-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/53960>

RIGHT:

京都大学高等教育叢書17

2002年度 学び支援プロジェクト - 学び探求編 -

平成15年3月

京都大学高等教育教授システム開発センター

序

本叢書は、高等教育教授システム開発センターで2002年度実施された「学び支援プロジェクト - 学び探求編 -」の成果報告書である。

学び支援プロジェクトは、2つのバージョンから構成するものとして授業開発が進められている。1つは、学生の学びを「大学生生活」や「大学生」という側面から焦点を当てて支援する「学び支援プロジェクト - 大学生生活編 -」（以下、大学生生活編）であり、2001年度後期に授業科目名「大学生の心理学」（全学共通科目1 - 4回生対象、受講学生約35人）として実施された。もう1つは本叢書で報告するものであり、大学における学びを真正面から問題にし探求することで、学生の学びを支援する「学び支援プロジェクト - 学び探求編 -」（以下、学び探求編）である。それは、2002年度前期・夏季集中に、授業科目名「大学における学びの探求（A）（B）」（Aは前期、Bは夏季集中を示す）として実施された。

「大学生生活編」「学び探求編」、いずれにおいても授業のコンセプト、授業デザインの根幹は共通しており、その概略は第1章で簡単に述べられる。しかし、すでに実施された「大学生生活編」について下記のとおり成果報告が重ねられているので、あわせてご参照いただければ幸いである。下記*1～4は2001～2002年度にかけて学会報告されたもの、*5～10は論文、著書として出版される予定のものである。

* 1 会員企画シンポジウム「大学生への自己理解教育実践」

日本発達心理学会第13回大会. S90-S93. (2002年3月28日, 早稲田大学)

溝上慎一企画及び話題提供「自己理解教育の授業研究 - 自己理解を促す授業デザインとは -」

* 2 自主シンポジウム「大学生生活を支援する自己理解教育実践 - 学びとの接合を目指して -」

日本教育心理学会第44回総会発表論文集, S42-S43. (2002年10月13日, 熊本大学)

溝上慎一企画及び話題提供「自己理解教育の授業概要と授業デザイン」

水間玲子 話題提供「自己理解教育に対する学生たちの受講動機」

尾崎仁美 話題提供「自己理解教育における学生たちの学びの成果」

小沢一仁 話題提供「自己理解教育とアイデンティティ・居場所」

* 3 溝上慎一発表「学びの導入教育としての自己理解教育実践 - 大学生生活の視点からのアプローチ -」

日本教育工学会第18回全国大会講演論文集, Pp.447-448. (2002年11月2日, 長岡技術科学大学)

* 4 溝上慎一発表“Development of the course to support university students' learning: Beyond the freshman seminar” Paper presented at The 8th International Conference, Globalization and Localization Enmeshed: Searching for a Balance in Education. Keynote Address, Panel Discussions, Paper Presentation Abstracts, p.94. (Chulalongkorn University, Thailand, 19th November 2002)

* 5 溝上慎一「学生の経験世界と学習から出発する大学教育改革」『教育学研究』70(2), 印刷中

* 6 溝上慎一「学生の内面世界から大学教育の質的改善・発展を考える」京都大学高等教育教授システム開発センター(編)『大学教育学』培風館, 印刷中

* 7 水間玲子「学び支援プロジェクト(大学生生活編) - 学生の参加動機について -」『京都大学高等教育研究』8, 75-99頁.

* 8 小沢一仁「学び支援の自己理解教育実践「大学生の心理学」を居場所及び

アイデンティティの視点から捉える」『京都大学高等教育研究』8, 59-74頁.

* 9 尾崎仁美「学び支援プロジェクト(大学生生活編)における学生の学び」『プシュケー』2, 印刷中

* 10 溝上慎一(編)『学生の学びを支援する - 大学教育改革への新たな挑戦 -』東信堂, 印刷中.

もちろん、学び支援プロジェクトにおける授業開発は、新しい大学教育へのチャレンジであるだけに問題点を多数抱えながら進められている。したがって、2001年度大学生生活編の授業で問題になった点は、当然のことながら2002年度学び探求編の実施計画に際しての改善対象となった。それらの具体的内容は第1章で述べられるが、表現支援に関しては、センター教授の藤岡完治先生の推薦により井下千以子先生(慶應義塾大学国際センター非常勤講師)をお招きして、研究として新たに取り組んでいただいた。その経緯も含めた詳細は、第2章で井下先生より述

べられる。

第3章、第4章では、本プロジェクトの共同研究者である尾崎仁美先生（京都ノートルダム女子大学人間文化学部）、水間玲子先生（奈良女子大学文学部）に、大学生生活編の授業に引き続いて、学生たちのこのような授業への参加動機や学びの成果の分析・報告をお願いした。毎回の授業観察やプロジェクト終了後の1人1時間半にもわたるインタビューの結果などを通して、学生たちが本プロジェクトにいかに参加し、いかに学んだかが明らかにされる。

最後に、学び探求編の授業は、藤岡完治先生とともに計画を進めてきたセンター・プロジェクトの1つであった。私たちは、2001年度の大学生生活編の実施・進行を横目に見ながら、授業開始の実に半年も前から授業デザインや進行の計画を立ててきた。共同研究者の井下千以子先生や井下理先生（慶應義塾大学総合政策学部教授）との打ち合わせのために、関東へも何度かともに出向いた。そして、多くの助言をいただき、かつ指導的役割を果たしてもらった。

その藤岡先生がご病気で緊急入院されたのは、授業が開始するまさに直前、4月はじめのことであった。当時の私たちの動揺はひとしおであり、結果的には何とか終了した学び探求編の授業であるように見えるが、開始期においては、実は藤岡先生が参加できなくなったために授業計画を変更した部分が大きく1つあった。それは、最終発表会を学会のようなカンファレンス形式でおこない、広く先生方や上回生、他の学生に参加を呼びかけ、教える教育の共同体づくりをめざすことであった。それは、私個人の奮闘や巧みな授業デザインによって実現されるものではなく、学内への大々的な宣伝から資金繰り、人手、FDの戦略などいろいろな事柄を巻き込んで実現する類のものであった。結局は、次年度以降の課題として繰り延べられ、中止することとなった。本叢書の完成をもって藤岡先生に学び探求編の実施成果を報告することとし、そして、先生の一刻もはやいご回復を切にお祈り申し上げたい。

最後に、本プロジェクトに参加・協力していただいた鎌田浩毅先生（京都大学総合人間学部教授）、佐藤進先生（京都大学大学院経済学研究科講師）、吉村成弘先生（京都大学大学院生命科学研究科助手）、芦田剛氏（京都大学大学院情報学研究科博士後期課程1年）、山本朋佳氏（京都大学教育学部4回生）に厚く御礼申し上げる。

平成15年2月

京都大学高等教育教授システム開発センター講師

溝上 慎一

2002年度・学び支援プロジェクト - 学び探求編 - 授業者、授業協力者、研究協力者一覧：

< 授業者 >

溝上 慎一（京都大学高等教育教授システム開発センター・講師）

井下千以子（慶應義塾大学国際センター・非常勤講師）

< 授業協力者 >

鎌田 浩毅（京都大学総合人間学部・教授）

佐藤 進（京都大学大学院経済学研究科・講師）

吉村 成弘（京都大学大学院生命科学研究科・助手）

芦田 剛（京都大学大学院情報学研究科・修士課程2回生）

山本 朋佳（京都大学教育学部4回生）

< 研究協力者 >

水間 玲子（奈良女子大学文学部・助手）

尾崎 仁美（京都ノートルダム女子大学人間文化学部・講師）

藤岡 完治（京都大学高等教育教授システム開発センター・教授）

井下 理（慶應義塾大学総合政策学部・教授）

< ティーチング・アシスタント >

杉原 真晃（京都大学大学院教育学研究科・修士課程1回生）

目 次

第1章 「学び支援プロジェクト（学び探求編）の実施 - 理論的背景・授業デザイン・授業ツール・成果 - 」	
溝上 慎一（京都大学高等教育教授システム開発センター）	1
第2章 「「大学での学び」を支援する表現指導を目指して - 議論すること・書くことの指導を通して - 」	
井下千以子（慶應義塾大学国際センター）	38
第3章 「学び支援プロジェクト（学び探求編）における学生の学び」	
尾崎 仁美（京都ノートルダム女子大学人間文化学部）	75
第4章 「大学生自身による“大学における学び”の探求課程 - 学び支援プロジェクト（学び探求編）での学生たちの模索 - 」	
水間 玲子（奈良女子大学文学部）	93

執筆者紹介(執筆順)

溝 上 慎 一	(京都大学高等教育教授システム開発センター・講師)	第 1 章担当
井 下 千似子	(慶応義塾大学国際センター・非常勤講師)	第 2 章担当
尾 崎 仁 美	(京都ノートルダム女子大学人間文化学部・講師)	第 3 章担当
水 間 玲 子	(奈良女子大学文学部・助手)	第 4 章担当

平成15年 3 月30日 印刷

非売品

平成15年 3 月30日 発行

発 行 京都大学高等教育教授システム開発センター
 京都市左京区吉田本町 (〒606 - 8501)
 T E L 075 - 753 - 3087
 F A X 075 - 753 - 3045

印 刷 (株) 北 斗 プ リ ン ト 社
 京都市左京区下鴨高木町38-2 (〒606-8540)
 T E L 075 - 791 - 6125



Kyoto University's Library of Higher Education Research
RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION